

(資料1) 令和5年度 磐田市立福田小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察 ※改善策	学校関係者評価委員から
学校づくり	学校が楽しい子	学府や学校で目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。 保護者67.9% (R4) → 81.9% (R5)	A	○「学校が楽しい」と感じている子の割合が、児童・保護者ともに増えた。その背景には、新型コロナウイルスの5類移行に伴う教育活動の制限緩和があるのではないかと。今後もカリキュラムマネジメントを発揮し、工夫と潤いに満ちた教育活動の創造に努めていく。 ※登校に不安を抱え、悩んでいる子がいるのも事実である。悩みや困難を抱える子供たちの居場所を確保しながら、子供自身が自律に向けて歩を踏み出すことができるよう、家庭や関係機関とも連携して適切な支援を模索していく。	○学校評価の結果からも、明らかに学校がよくなってきていると感じる。このまま頑張っていってほしい。 ○参観会で授業の様子を見たが、子供たちが生き生きしていた。子供たちはとても元気で、自発的に取り組んでいる様子も伺えた。
		学校生活が楽しい。 児童 81.1% (R4) → 91.2% (R5) 保護者93.9% (R4) → 95.6% (R5)			
心づくり	みんなが笑顔になる言動をする子	自分にはよいところがあると思う。 児童 79.9% (R4) → 85.3% (R5) 保護者82.1% (R4) → 79.9% (R5)	B	○自分自身を肯定的に捉える児童の割合は向上した。しかしながら、学級や学年等、集団の中では遠慮や恥ずかしさが上回り、自分のよさを十分に発揮できていない子もいる。 ○友達によさには気付いてはいるものの、それを言葉で伝えることに課題が感じられる。それぞれのよさを価値付け、集団の中で自己有用感を高められるようにしたい。 ※次年度も「いいとこ見付け」を継続し、友達によさや頑張りを他者が価値付ける場を設ける。 ※高学年を中心に教科担任制を推進し、教職員による多面的な児童理解・支援に努めていく。	○ボランティアとして授業に関わる中で、6年生の子供たちが1学期に比べ、すごく成長していた。日頃の先生方の御指導のおかげと思う。 ○福田の子供たちは、やや視野が狭いところがあるように思う。世の中にはいろいろな考え方、いろいろな人がいることを理解し、認め合う力を付けていってほしい。
		友達のよいところに気付いている。 ※「いいとこ見付け」で友達のよさを見付け伝えている。(R5児童一部変更) 児童 87.3% (R4) → 80.2% (R5) 保護者93.9% (R4) → 100.0% (R5)			
学びづくり	基礎・基本を身に付け、「わかった」を実感する子	学校の勉強がよく分かる。 児童 82.6% (R4) → 87.7% (R5) 保護者80.8% (R4) → 82.9% (R5)	A	○左記2項目の肯定値が、児童・保護者ともに向上した。特に学習端末の毎日の持ち帰りをやめにしたものの、「分からないことを、進んで先生に聞いたり自分で調べたりしている」の数値は上がっていることから、子供たち自身が目的に応じて判断し、使うことができるようになったと考える。 ※授業の中で分かることも大事だが、「あれ?」「どうなっているのだろう?」といった疑問やひっかかりがあることで、進んで調べたり学習意欲が高まる側面もある。今後も問いや課題の設定を工夫し、学習意欲の向上に努めていく。	○地域にはいろいろな経験、技量をもつ人がたくさんいる。そうした人はもちろん、地域の方々が多く関わることでできる学校であってほしいし、そうした地域とのかかわりは大切にしていってほしい。 ○学年担任制や教科担任制など、新しいことが始まるが、今まで以上に子供たち自身が考え、自分たちでクラスを動かしていくことができるようになると思う。とても楽しみである。
		分からないことを、進んで先生に聞いたり自分で調べたりしている。 児童 76.9% (R4) → 82.4% (R5) 保護者66.5% (R4) → 71.4% (R5)			
体づくり	心も身体も健康な子	運動面のめあてを立て、そのめあてに向かって運動している。 児童 85.5% (R4) → 85.0% (R5) 保護者71.3% (R4) → 100.0% (R5)	A	○「運動面のめあてを立て、そのめあてに向かって運動している」の数値は横ばいで、体育科の学習を中心に、年間計画に沿った体力向上の取組はされたと考えている。 ○「『ミニやごちゃん』を意識して食事をしている」「けがや事故に気を付けて、安全に生活している」の数値は、児童・保護者ともに向上した。体づくり部を中心に、丁寧な指導や啓発がされた結果と考える。 ※運動が好きで日ごろから体を動かしている子とそうでない子との二極化が見られる。体を動かすことの楽しさを味わい、子供たちの運動意欲が向上するよう、指導や場の設定について考えていく。 ※「ミニやごちゃん」を意識した食事については、家庭での啓発や協力が不可欠である。今後も家庭との連携を大事にし、子供の確かな成長を支えていきたい。	○民生児童委員の中には、何らかの形で学校に協力したいと思っている人がたくさんいる。そうした人たちに学校行事の案内をしたり、声を掛けたりしていくとよいのではないかと。 ○来年度実施予定の「かがやきステージ」には、ぜひ観客として見に来てほしい。 ○先生方の年齢構成や男女のバランスは実際どうなのか、少し気になっている。
		「みにやごちゃん」を意識して食事をしている。 児童 80.0% (R4) → 82.8% (R5) 保護者68.6% (R4) → 70.4% (R5)			
		けがや事故に気を付けて、安全に生活している。 児童 86.2% (R4) → 96.3% (R5) 保護者94.9% (R4) → 95.4% (R5)			

学校関係者評価を受けてのまとめ

令和5年度の学校評価について、数値的な結果だけでなく、その背景にある子供たちの頑張りと成長、保護者の理解、そして教職員の献身的な努力や取組についても評価していただいた。多くの御意見をいただく中で、キーワードとなったのは「地域とつながり」である。今、社会に開かれた教育課程の実現が求められているが、少子高齢化が進む福田地域においても、学校が地域とつながることにより、子供・保護者、教職員、地域全体にとってプラスの効果を生むと考える。予測困難なVUCAな時代を生きる子供たちだからこそ、さまざまな「ひと・もの・こと」といった本物にふれる機会を大切にしていきたい。

令和6年度から5・6年生において「学年担任制」を導入する。同時に「教科担任制」も推進し、子供たちがこれから生きていくうえで必要な資質・能力を育む学校として、開学151年目の歩みを力強く踏み出していきたい。